
東方の?にバイオのアノ人が憑依転生したようです。

ビックボスと言ってくれ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方の？にバイオのアノ人が憑依転生したようです。

【Nコード】

N2060W

【作者名】

ビックボスと言ってくれ

【あらすじ】

チェンソー男によって死んでしまったレオン

しかしそれは神様の部下が起こしたミスのせいだった
転生先でレオンはどうなる？

東方×バイオのどたばたアクション物語

プロローグ（前書き）

コメントください

ブローグ

?「チクシヨウ、キリがない!!」

ダンッ、ダンッ

?「うdびvふほhds!!!」

彼の名は、レオン。2年まえのラクーンシティ事件の担当警備にあ
たっていた男である。

現在彼は、ヨーロッパの山はずれの村に来ていた。

何故こんなところに居るのか?

実は4か月前、大統領の娘が誘拐された事件があった。

そして最近ここで、大統領の娘らしき人物がいたと報告があったか
らだ。

しかしそれが間違いだった。

彼は現在進行形でゾンビに襲われているのである。

〽回想終了〽

ガシャン、ガチャ

レ「チッ、もう弾がない!!」

ブオンブオン、ダダダダダッ!! ↑チェンソーが稼動した音

「しまっ」

ズガガガガガッ

「ウワアアアアア!!!」

・ ・ ・

・ ・ ・

ガバッ

「う、ここは何処だ？」

レオンは辺りを見渡したが、辺りはまるで牛乳のように白い色になっていた。

「目が覚めたようじゃのう」

「誰だ!？」

ヒュン

パシッ

「危ないのう、こんなもん投げおつたら」

「お前は誰だ？」

「ワシは神じゃ」

「……神？ゴッドって事か？」

「そうじゃ」

「すまん俺は夢を見ているんだきつと、この世に神なんて存在しないハズだ」

「あきらめろ、お前に自由はない！」

「スーク！？」

「ナルホド、俺は死んだのか」

「物分かりの早い小僧じゃのう」

「任務はいつも死と隣り合わせだからな。何時死んでもおかしくない」

「で、神様は俺に何の用があるんだ？」

「そのことなんじゃが、実は……」

「転生？」

「そうなんじゃ。お前さんの死は実は予想外だったんじゃ」

「予想外？」

「そうじゃ。予想外だったんじゃ」

「どうしてなんだ」

「実はわしの部下の一人がお前さんの歴史にインクをこぼしてもうてのお」

「それで俺が死んだと？」

「そういう事なのじゃ」

「今すぐそいつを呼んで来い。この場で撃ち殺してやる!!」

「落ち着くのじゃ！むしろ返り討ちにされるぞ」

「・・・わかった。で、俺は何処の世界に転生するんだ？」

「東方Projectという世界じゃ」

「どう言って世界か教えてくれ」

「簡単に言つと妖怪が居る世界じゃな」

「妖怪？」

妖怪って言えば、ヴァンパイアとかあのあたりか？

「なけるぜ」

「それじゃそろそろ送るぞ」

「おい、まだ話がある」

ヒューン

「がんばるんじゃぞ」

続く

プロローグ（後書き）

頑張ります。

目が覚めたら俺は・・・（前書き）

ずっとチルノのターン

目が覚めたら俺は・・・

・・・

「知らない天井だ・・・」

頭が痛いどこかにぶつけたか？

「イテテテッ、「大丈夫ですか？」誰だ・・・」

声がした方を見るとサイドテールで緑髪の娘がいた。

「あ、はい私は大妖精といいます」

・・・大妖精？この娘、いま自分の事を妖精と言ったぞ？

「？、大丈夫ですか？」

「ああ、平気だ。そういえば此処はどこなんだ？」

「あ、はい、此処は山の洞窟です」

「そうかわかった。少し一人にしてくれないか？」

「分かりました」

ボタン

「神様とやら、居るんだったら返事をしてくれ」

（聞こえるかのぉ）

「頭から声がするが一種のテレパシーみたいなものか？」

（そんなもんかのぉ）

「聞きたいことがある、この体は？」

今のレオンの体は、青いワンピースのような服を着た少女のような姿である。

しかも羽が生えてるとまで来た。

（送った際の不具合じゃのう）

「不具合だって！？」

（お主の体ごと送ったつもりが、魂だけがそっちにいったみたいじゃ）

「つまり憑依みたいなものか」

（その通りじゃ）

「しかしこの体だと少し戦闘がキツイな」

（その点はぬかりがないのじゃ）

「どういうことだ？」

（実はお主にある能力を授けたのじゃ）

「能力？」

（一つは、『ありとあらゆる武器や道具を創り出す程度の能力』じゃ）

「それはもはや程度ですまないと思うのだが」

（そういう設定なのじゃ。それともう一つの能力は、『冷気を操る程度の能力』じゃ）

「冷気？つてことは、氷の弾丸を撃てるってこともできるのか？」

（まあ、そこら辺は自分の力量次第じゃのう）

「他に何か無いのか？」

（特典として、お主が着ていた服をそっちに送った。もうスグ落ちてくるはずじゃ）

「落ちてくるって」

ヒュルルルル「危なっ！！」ドスンッ！！

（大丈夫かのう）

「当たっていたら死んでいたぞ！！」

（大丈夫じゃお主は死なないのじゃ！）

「何を理由に・・・」

（お主は妖精だから死なないのじゃ）

「・・・なんだって？」

（お主のその体の持ち主は妖精じゃったんじゃ）

「泣けるぜ・・・」

（それじゃのう）

「ああ、またな」

「さてと着替えるとするか」

少女、着替え中・・・

「なかなかだな」

ちなみに現在のレオンの姿は、

チルノにバイオ4のマフィアっぽい服　ボウシつきを着せた

と思って欲しい

続
く

目が覚めたら俺は・・・（後書き）

スぺカ受け付けます

俺ったらサイキョーだな！（こんなキャラだったけ・・・）（前書き）

スペルカードを受け付けます。
コメント宜しく。

「・・・泣けず。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2060w/>

東方の?にバイオのアノ人が憑依転生したようです。

2011年9月4日15時21分発行